

研究種目：若手研究（S）  
研究期間：2007～2011  
課題番号：19672001  
研究課題名（和文） 中国隋唐時代の俑に関する総合的研究

研究課題名（英文） Synthetic Studies on Tomb Figurines in the Sui and Tang Dynasties

#### 研究代表者

小林 仁（KOBAYASHI HITOSHI）  
財団法人大阪市美術振興協会・大阪市立東洋陶磁美術館学芸課・主任学芸員  
研究者番号：00373522

研究代表者の専門分野：東洋陶磁史  
科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史  
キーワード：美術史、陶磁史

#### 1. 研究計画の概要

墓に副葬される明器である俑は、中国美術史において重要な研究テーマの一つといえる。とくに隋唐時代の俑は、各地域の墓葬から紀年墓をはじめ豊富な出土例が報告されており、その様式変遷や地域性などを理解することが可能である。

本研究は、隋唐時代の俑について、紀年墓を中心とした出土資料の詳細な調査を行い、各時代・各地域の俑の特徴を把握しながら、様式変遷と地域性、そして制作技法や生産工房、葬送観念など多角的な視点から、隋唐時代の俑の成立と展開について明らかにすることを目的とする。具体的には、日本及び中国の第一線で活躍する研究協力者達の協力を得ながら、中国現地調査とテーマ研究を中心に、①南北朝時代の俑からの影響、②隋唐時代の俑の様式変遷と地域性、③隋唐時代の俑の制作技法と生産工房、④隋唐時代の俑に見られる葬送観念、の4つの問題に独自のアプローチを試みる。本研究は、研究代表者がこれまで実施してきた南北朝時代の俑に関する美術史的研究の成果を発展、展開させるもので、近年大きく注目されている南北朝から隋唐時期の美術史研究に新たな視点を提供しようとするものである。

#### 2. 研究の進捗状況

これまで中国現地調査とテーマ研究を相互に関連させながら研究を実施してきた。以下地域ごとに、主要な成果についてまとめる。

##### (1) 西安地区

陝西省考古研究院で調査した長安区出土隋唐墓群の出土資料は、新発見の隋時代の紀年墓資料などを含み、隋俑の編年、分期研究にとって重要な意義をもつものであった。また個人所蔵の西安唐醴泉坊窯址及び平康坊窯址出土の唐俑陶範を調査するとともに、その陶範を使つての成形実験を行った。陶範成形が想像以上に熟練の技が必要であることが理解でき、俑の製作技術を理解する上で大きな収穫となった。

##### (2) 山西、河北地区

山西省の長治市博物館では長治地区出土の唐代陶俑の調査を行い、山西東南部に独自の陶俑の様式が見られることを確認した。襄垣県では近年出土の隋唐俑を調査し、一部「瓷質」と報告されている俑が邢窯産である可能性が高いことが分かり、邢窯産の唐代の俑の流通に関する新知見となった。

河北省では孫信墓出土の唐俑などを調査した。報告されている資料によれば河北地区の陶俑は、ほぼ7世紀代の初唐期に集中しており、ほとんどが邢窯産でないかと考えた。そして、河北邢台では近年邢窯で出土した陶俑及び仏教陶塑類の一括資料を実見し、邢窯が河北地区の陶俑の一大生産地であったことが実際に確認できた。

##### (3) 湖南、湖北地区

湖南省では岳州窯（湘陰窯）の隋唐時代の俑及びその生産状況について調査を行い、とくに青瓷俑は湖南地区のみならず、近隣の湖北や四川地区などにも流通していた状況が

確認できた、湖北隋墓出土の俑も岳州窯産である可能性が高いことが分かった。

#### (4) 江西地区

江西省博物館では未報告の唐三彩俑の資料を実見し、唐三彩俑の分布と流通を考える上で重要な発見となった。また、洪州窯窯址ならびに出土資料を調査し、洪州窯産青磁の実体について理解を深めた。それにより、湖北地区の調査で実見した青磁明器類の一部が洪州窯産である可能性が高いことが分かった。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

現地調査は限られた日数と回数の中において、かなり効率的に実施できており、また新知見や新発見などの資料も調査、実見することができ、十分な成果が上がっている。

### 4. 今後の研究の推進方策

平成 22 年度及びそれ以降についても、これまで同様、中国現地調査とテーマ研究を中心に研究を展開していく予定である。具体的には山東、江蘇地区、西安、甘肅地区などにおける調査と成果公表のための補足・追加調査も適宜実施したい。また、現地調査の成果を踏まえたテーマ研究のとりまとめも進め、学会や研究会、さらには公開レクチャーなどでその成果を公表するとともに、論文として日本中国考古学会、東洋陶磁学会、中国古陶磁学会の会誌などに順次投稿していく予定である。

### 5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計 1 件)

①小林仁、「白瓷的誕生—北朝瓷器生産的諸問題與安陽張盛墓出土白瓷俑【中国語】」、中国古陶磁学会編『中国古陶磁研究(第 15 輯)』紫禁城出版社、査読無、2009 年、61-78 頁

〔学会発表〕(計 5 件)

①小林仁「唐代青瓷俑考—長江中流域の隋唐時代の俑に関する諸問題—」、東洋陶磁学会研究例会、2010年2月13日、大阪市立東洋陶磁美術館

②小林仁「初唐期の俑の特質について—陝西・河南地区を中心に—」日本中国考古学会2009年度大会、2009年11月22日、筑波大学

③小林仁「白瓷的誕生—北朝瓷器生産的諸問題與安陽張盛墓出土白瓷俑【中国語】」、中国古陶磁学会“中国早期白瓷、白釉彩瓷專題學術研討会”、2009年10月22日、河南省鄭州

④小林仁「中国唐時代の俑の制作技法について—陶範成形を中心に—」、民族藝

術学会第112回研究例会、2008年11月1日、国立民族学博物館

⑤小林仁「山西省の唐時代の俑について」、東洋陶磁学会研究例会、2008年6月28日、大阪市立東洋陶磁美術館  
〔その他〕

(1) 招待講演

①小林仁「中国の陶俑—その魅力と謎」、出光美術館第 264 回水曜講演会、2009 年 8 月 26 日、出光美術館(講演録は『出光美術館報』149 号、150 号に掲載)

(2) 公開レクチャー・公開講座

①小林仁「中国隋唐時代の俑について—平成 20 年度科学研究費補助金(若手研究 S) の調査報告」、学芸員アフタヌーン・レクチャー第 7 回、2009 年 3 月 7 日、大阪市立東洋陶磁美術館

②小林仁「唐代女俑の美」、ミュージアムウィークス大阪 2008 記念大阪市立東洋陶磁美術館公開講座「中国陶磁の魅力」、2008 年 10 月 11 日、大阪市立東洋陶磁美術館  
など